

病害診断の現場から—混発病斑—

Vol. 21 では、*Stemphylium* (ステムフィリウム) 属菌を中心に肉眼では識別の難しい混発事例を紹介しましたが、今回は肉眼でも、それぞれの病害の特徴が明瞭に識別できる混発事例です。

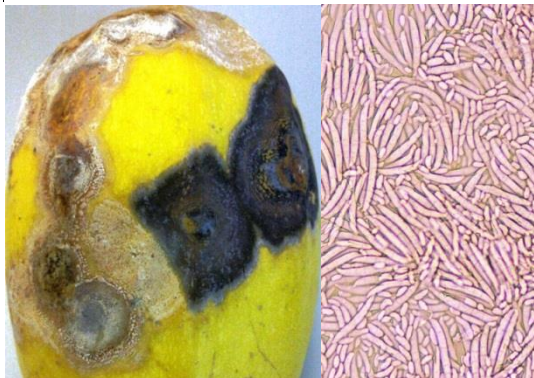
1. トマト実腐病 (*Phoma*) とトマトうどんこ病 (*Oidium*)



実腐病は、果実では黒褐色円形の小病斑を形成し、葉に発生した場合は輪紋病斑を生じます。ここでは左側に実腐病の輪紋病斑が、右側には、うどんこ病の白いカビが見られ、二つの病害は重なり合ってはいません(写真左)。うどんこ病は後から感染したのでしょうか。うどんこ病は活物寄生なので病原菌によって侵されている部分には寄生できません。

実腐病の輪紋病斑には *Phoma* の分生子殻が多数形成されています(写真右)。

2. カボチャ (キンシウリ) フザリウム果実腐敗病 (*Fusarium*) と炭疽病 (*Colletotrichum*)



果梗部から白色～淡橙色にフザリウム果実腐敗病が進行し、果面から黒色の炭疽病の病斑が拡大していますが、両病害の病斑が接すると、互いの進展を抑えています。この写真では確認しにくいですが、炭疽病の病斑上には淡橙色の分生子塊が見られます(写真左)。

フザリウム果実腐敗病の病斑上には *Fusarium* の大型分生子と小型分生子が密生しています(写真右)。

3. クワイ斑紋病 (*Cercospora*) とクワイ葉枯病 (*Marssonina*)



大小2種類の病斑が混在しています。径1cmを超える大きな方が斑紋病、径数mmの小さな方が葉枯病です。両病斑の特徴を明瞭に残しながらも混在、混発している珍しい発病例です(写真左)。

褐色の菌糸は *Cercospora* の分生子柄、無色で長いものが *Cercospora* の分生子、短くたくさん散らばっているのが *Marssonina* の分生子です(写真右)。